

平成25年度知事と県民の意見交換会概要

テーマ：民俗芸能の継承と地域の活性化について

日時：平成25年8月8日(木) 9:30～12:00

場所：由利本荘市市民交流学習センター 第1研修室

(知事)

知事は、市町村長、首長だとか会長との意見交換の機会はあるが、具体的にいろいろなことを地元でやっている方の情報が少ない。私が知事になってから、地域ごとにテーマを設定して現場の方との意見交換会を実施させていただいており、こうした話し合いを政策を決める際の参考にしている。

本日は民俗芸能がテーマであるが、来年は秋田県で国民文化祭が開かれる。秋田県は、国の重要無形民俗文化財が日本で一番多いが、中でも由利本荘地域、鳥海山麓が一番多い。それを意外と秋田県人が知らない。来年の国民文化祭は、秋田全体の歴史と文化を表に出しながら、地域の活性化、後継者の育成に結び付けたいと考えている。皆さんから今の状況、悩み事、これからの方向性についての抱負などを聞き、できることがあればお手伝いをしたいと考えている。よろしく願います。

(局長)

初めに、実演とDVDにより、民俗芸能を実際に観ていただき、その後に意見交換をさせていただく。先ほど知事の挨拶にあったように秋田県は民俗芸能が多いが、その中でも特に由利地域は民俗芸能が多く、国、県指定の文化財は、全県の四分の一を占めている。民俗芸能に盛んなこの地域で長年、継承や保存に取り組んできた皆さんから、積極的に意見をいただきたい。よろしく願います。

※以後、同会場にて、民俗芸能の実演及びDVDを鑑賞。

(局長)

初めに「民俗芸能の継承」について、御意見を願います。先ほど知事からも話があったが、社会構造も変わってきており、継承者をどうするか、皆さん、苦勞されていると思う。最初にAさんから願います。

(A氏)

昔から獅子舞番楽に関わってきている。その後、役場に入り、獅子舞番楽を担当する部署に就いた。当時、各講中(伝承団体のこと)がばらばらで簡単に情報提供してくれなかった。それが段々と交流が生まれ、情報も交換するようになった。それから県の文化財指定を受け、その10周年記念で「鳥海獅子まつり」を実施することになった。それがきっかけで、宗教との関係を離れオープンになった。「鳥海獅子まつり」は毎年8月16日に開かれ、未だに続いている。基本となるのは、演じる人も観る人も楽しくなければならぬということだ。理屈をこねるよりもまず生で見せることにしている。平成になって少し元気になってきたが、将来が不安である。

(局 長)

先ほど、実演を拝見したが、体力を使うということで、ある程度若い男性が舞うことになるだろうが、少子高齢化の中で若い男性が少なくなり難儀されていると思う。獅子頭や道具はどうしているか。

(A 氏)

昔から獅子舞番楽は、農民芸能であり、獅子頭や面を掘る、衣装をつくる、兜をつくるというのは全部、我々の地域で手づくりしている。それが、今まで金をかけないでやってきたという大事なところであり、そういうことを含めて伝承していかなければならない。今は私がつくっているが、後継者も考えている。つくる場合は、伝統芸能は創作が許されないの、昔のままの模様、形でつくらなければならない。これが文化財の厳しいところである。

(局 長)

Bさん、日役町の獅子踊りは、先ほどの映像で女性が入っていたが、男性に限らずやっているということか。

(B 氏)

踊りは子どもの頃から教えるが、後ろに大人が密着して教えるので、女の子だと都合が悪い。そういう意味で男でないと踊りはできない。笛は、女の子に教えている。男よりも女の子のほうが笛が良く鳴る。女性が入らないと笛がない、踊られないということになる。非常に助かっている。しかし、頭を抱えているのは、いかに伝承していくかである。このまま10年経つと途絶えるということが分かっており、今は町内から出ていった子や隣接町内をお願いしている。400年も伝承してきたものを我々の代で途絶えさせるわけにいかないの、必死に方策を考えている。

(知 事)

伝統ある祭りで、かつては男性だけという流れがあったが、今はかなり女性が入ってきている。広域化については、大きなお祭りも地域だけではなんともならなくて、近隣から借りてきてやっている。そうした際、近隣から来る人は楽しくないとやらない。地域の人には義務感であるが、近隣の人には義務感よりも参加する楽しさである。この種のもの、楽しいだけでなく覚えるのがかなり大変である。

(局 長)

Cさん、チョウクライロ舞は子どもがやっていたが、子どもが少ない中で他の行事や活動とぶつかり難儀されていると聞いたが、どうしているか。

(C 氏)

チョウクライロ舞は、7演目あり、そのうち3演目は小学生が舞うが、祭り当日にスポーツの野球の大会がある。今年は、人がいなくて中学1年生2人、小学2年生を入れてやっている。私の集落は140戸と大きいほうであるが、それでも子どもが少なくなっており、氏子総代、自治会の役員がこれから来年に向け協議する。日にちをずらさなければならないということが一つ。また、チョウクライロ山は神様が降りてくる場所であり、女人禁制であるが、いつまでもそれにとらわれていると舞が残らない。近隣の集落に範囲を広げ維

持していくという時代が間もなく来る。隣の町の小学校で課外学習として伝統を皆で継いでいってもらおうかと話をしている。

(局長)

大森歌舞伎は、一端途絶えて復活させたということだが、その演じ方については、書き物などでしっかり残っているか。継承のためのツールは何かあるか。

(D 氏)

以前の会長が、演じていた叔父に聞いたり、音が小さく聞きづらいものであったがリアル式のテープレコーダーに記録が残っており、少しずつ集めて一冊の台本にした。昭和52年にもう一度始めようということで、続けていくこととなった。

(知事)

大森歌舞伎は、舞台の上ではなく、自然の中でやっているものか。

(D 氏)

神社の境内の社務所への搬入のための道であり、それを利用した。

(知事)

ものすごい集客力がありそうだ。次元を越えるような気分になった。観る方も演じる方も自然を使ってやると面白い。街がないし電線がないから江戸時代といってもおかしくない。都市部の人には緑の光景に飢えている。外での演技は新鮮に見える。本来は、外で演じたものか。

(E 氏)

本来は、宮付きの芸能なので、境内などで行った。

(局長)

Fさんは、事務局としてずっとバックアップされてきたが、継承に関して、力を入れていることがあれば紹介いただきたい。

(F 氏)

私も仕事として文化財に携わってきたが、子どもの頃からの動機付けが後に大きくなるので、民俗芸能を学校教育の中にどう取り入れていくかということが大事である。岩手県辺りではやっている学校も多い。鳥海の小学校では、鳥海の3つの芸能を伝習している。地域に目を向ける機会にもなるし、教える保存会の意気も上がる。

また、集落を越えてやるということだが、興味がある人はどんどん参加して欲しいと考えている。今年、試験的に女性に番楽の笛をお願いした。女人禁制などの不文律を徐々に解消するだとか、手立てを講じないと、伝統だけでは芸能は持たない。ある国指定重要無形民俗文化財の例では、他県に支部をつくってやっている。全国発信的なものをつくっていければと思っている。

(知事)

確かに学校統合が進むと、学校の中でクラブなどで民俗芸能を取り上げることでやや広

がりが生まれる。民謡はやっているところが結構ある。熱心な先生がいるとその時代にクラブができ、その先生が代わっても地元の方が教えに行くので続いていく。市町村によっては、練習道具は学校で揃えるところもある。特に大人数のお祭りは、そういうことができる。番楽のようにもう少し小さい単位のものだと、広域化になじまない。学校統合があれば、ある地域が中心だが、その地域だけでやるものではない、というような持って行き方もできる。

(局長)

市の教育委員会では、学校とのやりとりはあるか。

(由利本荘市教育委員会文化課)

象潟郷土資料館では、太鼓と獅子頭があり学校で舞や笛を学びたいという場合に貸している。前は学校でも、郷土芸能クラブみたいなもので、太鼓や笛で地元の初舞という獅子舞を習っていた。今でも続いていると思う。

(A氏)

男の子は親も一緒になって野球に熱心だ。私は高校の芸能を観ているが、岩手県は非常に高校の芸能が盛んだ。高校になると選別され、皆が皆野球少年ではなくなり、別のクラブ活動に入る。全ての県立高校で地域の伝統芸能を学ぶようになれば、秋田県の力になる。そのため、矢島では小学校でやっているが、これを高校で受け止められないかと話し合いをしている。高校でもやるようになると小中学校から民俗芸能をやるんだ、という子が出てくるかもしれない。

(知事)

私が秋田市長であったときに、日本舞踊の団体とタイアップして、全ての小中学校で一曲歌えて一曲踊れるようにという活動をやったら、それが定着した。高校で、という考えは今までなかった。小学校ではスポーツをやっても、限界が分かる中学校になると、ちょっと無理だ、となり、高校になるとそれがさらにはっきりする。

(局長)

Eさん、どうぞ。

(E氏)

平成20年に集落のドキュメンタリー映画の作成に入り、平成23年に完成した。それと併せ、屋敷番楽の全20演目を収録したDVDも制作することができた。20演目のDVDは、市内の学校等に配布している。とにかくDVDを観ていただき、番楽に興味を持っていたらという思いである。今後、20、30年後にどのくらい保存できているか分からないが、映像に残せたということは屋敷番楽の財産かと思っている。

(知事)

20演目というと、ものすごく多く感じる。そして一つ一つストーリーがある。何かの機会で一連のものを全部やるというとどのくらいかかるか。

(E 氏)

4時間30分程度かかる。毎年8月の16日に15演目程度、26日に13演目程度の現地公演をやっている。うちの集落は全部で23戸の集落だが、現在、26名で活動している。30代、40代が多く、主に舞を頑張ってもらっている。

(局 長)

10～15年後を考えて、30代、40代の次の世代が気になったが。

(E 氏)

小学6年の男の子が、夏休みにDVDを観て、1つ舞を覚えてくれた。興味があれば外の人もDVDを観ながら練習することができると思う。20～30年後、DVDで覚えてもらえれば復活できるかなど。ただ、屋敷集落だけでは、保存は難しい。

(局 長)

金浦神楽はかなりの人数が参加しているがどうか。

(G 氏)

金浦の5月の祭りが一番大きな祭りだが、8つの町内の持ち回りで当番制でやっていた。少子化の問題で、6つの町内に合併したが、それでも厳しくなり、金浦神楽と踊りと2つの演芸があるが、山車は出せないような状態が何年も続いている。これからは、町内の編成の見直しなどを考えなければならないが、なかなか実現しない。

(知 事)

若い人、後継者の問題で非常に厳しい状況であるが、なんとか頑張ってやっていると、苦勞の状況がよく分かった。ストーリー、背景、演目の多さなど、非常に新鮮であった。中で一生懸命やるのも難儀だが、後継者も演じる人も外からの評価が高まるとやる気も出てくるし、宗教行事、本来の行事での機会以外でも観てもらえる機会があるとすると、例えば資金的なバックアップなども出てくる可能性がある。日本全体で大変な状況であるが、最も素材のある秋田である程度うまくいけば、全国のモデルにもなると思う。ここまで奥の深いものだとは分からなかった。

(局 長)

次のテーマである「民俗芸能と地域の活性化」について入らせていただく。情報発信をしながら、地域の絆を残していくということと、商売や交流人口の拡大につなげていきたい、という考えがあるかと思う。最初に、Cさんから、いろいろな公演の機会や発表の機会があるが、その辺の取組とお考えをお聞かせ願いたい。

(C 氏)

鳥海山小滝舞楽保存会は、チョウクライロ舞だけでなく、鳥海山小滝番楽、御宝頭の舞、アマノハギ（なまはげと似た鬼）、雅楽と5つの部門を保存している。いろいろなところからお声がかかる。チョウクライロ舞と御宝頭の舞は、純然たる神事なので依頼されても舞えない。番楽については、余興的なものでも出て行ったりする。格式の高い式舞（神話を劇化した舞）であれば、結婚式で依頼されれば行くことがある。

先ほど観光資源という話があったが、観光で何かを得ようということではなく、自分達

のバイタリティ、稽古の励みにしたい、より良く技を磨きたい、そういうところが外から来ていただくことの大切などところである。メンバーは今のところ年齢別に平均的にいるが、若い世代が確実に少なくなっている。結束が固く、上下関係が厳しい消防団のつながりを頼って、メンバーを集めている。このメンバーが年寄りと酒を飲みながらコミュニケーションを取り、行事にも割と気楽に参加してくれるようになったことも大変なメリットだと思っている。

(局長)

第3回の「鳥海山伝承芸能祭」の資料があるが、我々も、遊佐町との交流のバスツアーをやったときに、伝承芸能祭が面白かったという話があった。伝承芸能祭の観客数の推移はどうか。

(C氏)

金峰神社の境内で実施し、非常に雰囲気良く、来場される方々から好評をいただいている。年々、観覧者の方が増えてきていることもあり、来年の国民文化祭もそこも1つの会場になっていることから、会場の整備を市にお願いしているが、実現は難しそう。地域の活性化を図るための県の財産でもあるので、本日は援助をお願いしたい、という目的もあって参加した。そういうこともお願いできればと思う。

(知事)

地元の由利本荘市、にかほ市で整備していくという考え方もあるが、大きく考えると、鳥海山の観光振興という非常に大きな題材がある。鳥海山は物凄い観光資源とは言うが、山そのものだけではアピールは難しい。もう一つ、文化的な副題が欲しい。鳥海山麓の文化資源が多いので、単に山だけでなく、番楽の里だとか、〇〇の里といったそういうイメージをつくりながら、観光ルートとなって年に何回か大きな会場で見せる、東京に宣伝する、というところに辿り着けばいい。そういうものが出てくると後継者もこれに参加するようになり、参加することが単なる自分のところの伝統的行事を継承するというだけでなく、地域の発展に自分も貢献するという意気込みが出てくるのかなという気がする。

(局長)

Eさん、台湾からのツアー客の前でも公演しているが、先ほどの知事の話にもあったブライドや伝統もあるので、余興ではやりたくないというのもあると思うが。

(E氏)

毎年、由利地域で南由利原で高原祭りというのをやっており県内外から客が来るが、毎年出場させていただき、ありがたく思っている。そういう中でPRできるというのはやりがいがあるし、練習にも熱が入る。観光振興の関係のイベントがあった場合、依頼があれば、できる限りは出演したいと思っている。

(局長)

金浦神楽は、公演が多いが、外部への発信に関してはどうお考えか。

(G氏)

2月に掛け魚祭りというのがある。これは鱒を奉納する奇祭ということで、商工会や町

の産業課がPRしてくれて大分観客が来てくれるようになった。今年は6千人と金浦町の人口より多い観客が来てくれた。他にも公演しているが、こちらからはあまりPRはしていない。観て楽しい太鼓なので、人気があり、いろいろな依頼がある。

(局長)

どの民俗芸能も由来があり時期と場所の制約を受け、子どもが出演するとなると、スポーツや学校との関係もあり、いつでもというわけにはいかない。その調整をしていくことが課題なのかと思う。Fさんは、多くの公演をまとめた実績があるが、どうしているか。

(F氏)

伝承者、集落地域、行政及び研究者の4者の関係がうまくいっていると思っている。他の団体から見ると中央での公演が多い。全国的な組織にも加盟しているし、中央の研究者とも交流している。先ほど、知事が言っていたように、外からの評価の高まりが伝承者にとっての一番の励みだと思う。それを契機に、地域で講中に参加していない若者をうまく取り込んでいく。ただ、集落をあげた取組が余りない。集落をうまく取り込んでいくということが我々の最大の課題だと思っている。

(局長)

Aさんは、岩手県と伝承者同士の交流もやっていると聞いたが。

(A氏)

昭和50年頃から北上市との交流を毎年行っている。岩手県から一団体を呼び、演じてもらうことは、地元の人が今年も観に行く、という励みになる。これも予算が伴うので、行政支援も大事である。

いろいろな立場から話すと、元々獅子舞番楽は集落単位の孤立状態であったが、後に一つの組織を持つようになった。今では、鳥海だけでなくもっと大きい広がりを持ち、間もなく由利本荘市の民俗芸能団体連絡協議会を立ち上げる。これによりお互いに励まし合いながら、行政にもいろいろとお願いしていくこともできる。鳥海は、他にも民俗芸能があるが、行政支援が適切に行われたから続いているので、理解いただければと思う。そのためにはバラバラではダメ。環鳥海という形でやればよい。

もう一つ、昨年、他県での祭典が国土交通省の予算で行われた。各省庁でそうした予算を持っているので、行政で引き出してもらえればありがたい。

(知事)

行政の本音をいうと、民俗芸能の純粋な保存、伝承というのが片方にあるが、観光というと経済政策になり、観光行事だとするとお金を出せる。すぐに予算が付くという話ではないが、秋田県全体だと広くなりすぎるから、由利本荘市、にかほ市に絞って、民俗芸能にふさわしい野外ステージをつくり、決まった日にそこで集まり、通常は伝統的な日にちでやる。そういうストーリーだと、地域の副題になると思う。由利は県が観光の重点地域にしているのだから、両市と県とで検討していってもらいたい。自然を観るだけの観光が落ち込んでいる中で、大自然をバックに人文資源を活かした観光が注目されている。視点を変えていかなければならない。先ほどの国交省の事業の話も、道路をつくることによって文化的なものも変わってくるし、道路の利用率も高くなるという理屈でないか。狭い範囲で捉えると財源も少ないが、そういうものがあれば使っていく。祭りの費用の持ち方をどう

するかといった話があったが、日常の諸道具はどういうお金の出し方をしているか。

(A 氏)

衣装や道具をつくり直すというのは、文部科学省、県、市の補助金を活用して更新している。その他、遠征費のようなものにはお金が出ない。

(C 氏)

備品的な物、お金の掛かる衣装、太鼓だとかそういうものについては、助成金を使って更新している。日常の消耗品的な物は、自治会からお金をいただき、対応している。ただ、遠征については、遠征費をいただくこともあるし、自腹で行く場合もある。

(B 氏)

今年は、衣装を新しい物に代えなければならなくなって代えた。半分を市に補助していただいた。あと半分は保存会の積み立てで対応した。ただし、獅子頭は竹を編んだ物にお札などを貼り付けてつくっているのので、形がなくなると復元不可能である。観光という話があったが、踊り手が3人必要なのでできない場合がある。踊り手は30代前半くらいまでの方でないと踊れない。観光ということで、常時踊るということになるは大変だ。年に数えるくらいしか出演できないということが悩みの種である。

(局長)

Eさん、踊り手が自分で持っている物、消耗品的な物の保存というのは、個人負担になるのか、皆で負担しているものか。祖父から孫に直接伝えているようなものもあるか。

(E 氏)

うちの場合は、そろいの浴衣を十数年前に準備した。それまでは個人の普通の浴衣であった。以前、文化庁の補助事業があり、それを受けることができ、鎧2着と鳥兜を新調した。特殊な物は壊れるとすぐ買ってくることもできないし、ある程度準備しておかなければならない。ただ、文化庁の補助事業というのも、後継者育成や保存に関する事業も一緒にやるという制約があり、全20演目の伝承用のDVDを別につくった。

(局長)

補助事業だけでなく、積極的に来てもらった人から観覧料をいただいたり、出演料などで回しているといったところはないか。

(知事)

企業の協賛も、道具に協賛〇〇株式会社と付けられない。竿灯であれば企業の名前を付けているが、伝統的な、文化的なものに企業の名前をぶら下げるわけにはいかない。なかなか難しい。

(C 氏)

企業ではないが、集落内でお盆や祭りの前夜祭で公演したときに、集落の人から花代はもらう。全部飲み代に回って、備品には回らないが。



(G 氏)

金浦神楽は、市からの補助金と当番町の負担金、子どもが出た家庭から衣装貸出金をもらっている。10年くらいでまとまったお金となるので、はんでんや衣装を買っている。また、1回の公演で、3万円ほどもらっている。運転資金はなんとかなっているが、練習場が雨漏りしており、解体するのに費用が掛かるようなので備えている。

(知 事)

練習といえば、今は大体、公民館とかコミュニティセンターだとか集落のそういうものを使っている。自前で持っているのは珍しい。

(G 氏)

我々の先代の師匠が頑張って建てた。大工が多かったので、廃材等を利用して建てたようだ。独自に持っているのと時間無制限で使用できるのが良い。

(知 事)

確かに公的な所は夜の制限があったり、他の団体とバッティングしたりするので難しい。それより小さい施設だと地域に管理を任されており使いやすい。

Dさんの大森歌舞伎について聞きたいことがあるが、歌舞伎の役者というのはある程度演技力がないとダメだろうが、どういう人がやっているか。着る物は昔からのものか。

(D 氏)

自ら手上げたわけではなく、発足当時、先輩達から指名されて決まったのが続いている。着る物は、市からの補助金と寄附である。村から出て行った人がくれることもある。

(局 長)

今まで地域活性化について、話をしてきた。皆さん方で団体をまとめるという話があったが、今後、一堂に会して由利本荘市、にかほ市という行政区域も離れて演じるという場合に、障害があるものか。

(知 事)

今度、協議会ができるという話があったが、全体の協議会が必要なのかなど。つなぎに振興局が入って、にかほ市も一緒にならないか。鳥海山麓伝統〇〇協議会といった形で。鳥海山という大きな背景があって、その周辺の民俗芸能であれば将来的に一体的に捉えて観光資源としてバックアップしやすい。外に売り出すときには、由利本荘市の〇〇ではなくて、鳥海山を前面に出して売り出す。そういうことがあれば広がるかもしれない。

(にかほ市教育委員会文化財保護課)

由利本荘市、にかほ市、遊佐町の鳥海山麓周辺が修験の関係で国の史跡になっている。そのほかに平成21年ににかほ市の5つの番楽と由利本荘市の3つの番楽が、鳥海山北麓の獅子舞番楽ということで国の記録選択(芸態の記録等に対し補助が可能となるもの)になった。連携を取ってやっていこうということで由利本荘市と協議している。

(知 事)

県レベルでも、日沿道が間もなく開通になるということで、先日、山形県の吉村知事が

秋田に来て、将来的に鳥海山全体の観光開発や産業活性化について、知事同士でも一緒にやっ払いこうという要望を受けている。皆さんは、大変厳しい状況でも芸能を復活させたり、外から見ると非常に新鮮な題材で続けてきているので、どう活かしていくかということを考えていただきたい。観光ということだけでなく、地域で練り上げていくことで地域に若い人が定着するということもあり、振興局を中心に話し合いをして、できることを考えていきたい。観光文化スポーツ部という組織もつくっており一緒になって盛り上げていきたい。当面は、来年、国民文化祭で難儀をかける。秋田県として、郷土芸能を前面に出していこうと思っているので、よろしくお願ひする。

(終了)